

郡西 秋 口

改良米俵焼印

公文書館

企画展

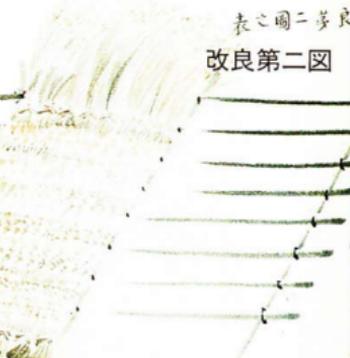
明治十年代

秋田の勸農政策

改良第一図 第一号改良米



表之圖二改良米 改良第二図



腐米改良稲架掛図

第一号改良米

第一号改良米



旧慣第一図

■ 展示によせて

明治政府は殖産興業に力をそそぎ、近代産業を育成しようとしてきました。農業でも欧米の技術を取り入れた近代化がすすめられました。しかし明治10年代に入ると、政府は老農を積極的に組織化して、在来農法の工夫と改善によって地域の実情に即応した農業を行う方向に転換しました。

各種の博覧会、種苗交換会、農談会、年報等を通じてより先進的な情報を交換し合い、各種の試験場などの研究施設を設置して地域に則した品種の改良が行なわれました。統計的な実態把握も行われはじめました。

厳しいデフレーションの時代でありましたが、老農を地域のリーダーとして新しい試みが積極的に行われ、本県農業の特徴があらわれた一時代といえます。

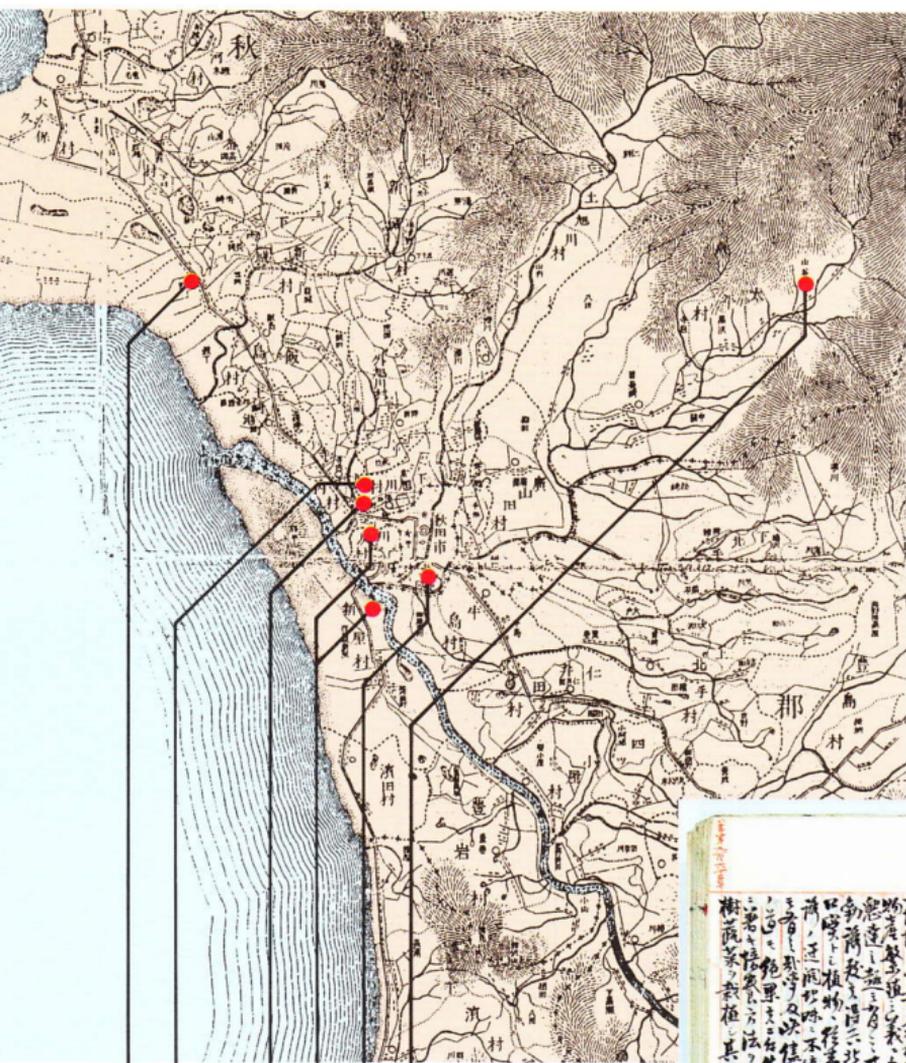
この展示を通じて、勸農政策史料に興味をもたれるとともに、本館の所蔵史料を活用した研究が行われることを望んでやみません。

● 勸業試験場

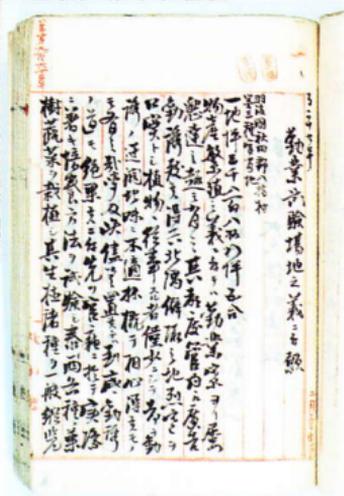
秋田県内への西洋農法および県外先進農法の導入は、県の強い指導のもとに勸業試験場を中心に行われました。

明治9（1876）年の八橋植物園と養蚕試験場に始まり、13年までに下図の6カ所に各種の勸業試験場が設立されました。

これら試験場は、作物、家畜、農具等の試作試用と普及のセンターとしての役割をはたしました。12年には土地別の作物適応を試験する自由試験場が各地に設けられました。



- 天蚕試験場
- 機業場
- 養蚕試験場
- 八橋植物園
(育種場)
- 牧畜試験場
- 芦粟試験場



八橋植物園開設上申書

●養蚕業の進展

秋田県内の物産では蚕種がもっとも著名で、明治初年から10年代にかけての養蚕業は蚕種製造に主力が置かれていました。

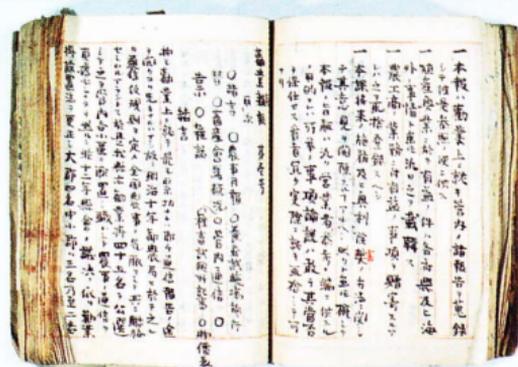
10年代は県内各地に蚕種製造組合が設立されました。特に川尻組の蚕種の品質は、イタリア等海外でも非常に高い評価を得ました。

一方、県は桑苗、桑葉の養蚕人への供給と、養蚕技術の普及のため、明治9（1876）年に養蚕試験場を設置しました。



川尻組のローマ字入り蚕種原紙

●農業統計のはじまり



明治13年「勸業課報告掛事務等」

はじまる「農商務統計調査」などの農業統計調査があげられます。

県は国に報告するため、各郡ごとに担当職員や通信員をおいて報告できるシステムを確立していきました。勸農系統の組織化はこの面から整備されました。報告の内容は当時の農業を知る貴重な資料となっています。

農業政策を推進するための基礎資料として、明治3年（1870）からの「物産表」、明治10年からの「農産表」、さらに明治16年から

●勸農推進の仕組み

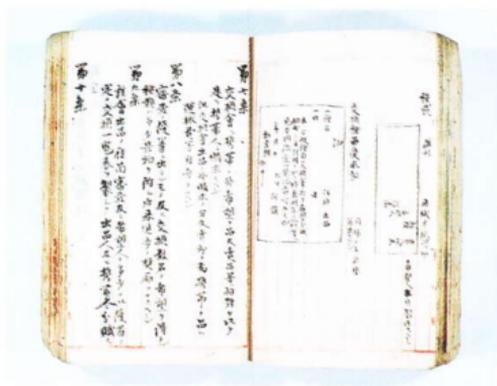


国の方針を受けて、秋田県は老農の知識や経験を積極的に活用して地域に即した農業を普及させるため、かれらを勸業掛に任命したり、県内を大農区・小農区に分けて農業独自の指導体制をつくろうとしました。また勸業諮問会を設けて政策を立案しようとしていました。

一方、官民間わず各地で種苗交換会や農談会等が開催され、老農を中心として情報の交換と農法を討議する組織が各地に作られました。

●初期の種苗交換会・農談会

初期の県の種苗交換会は、南秋田郡八橋村の第一勸業場を会場として、当時の農業関係者が出品した種苗を陳列し、それを希望者に分け与える機会でした。県内の各町村はとより全国各地で行われました。これと並んで、農談会は地域の実情に即した農業の振興のため、農業関係者が真剣に実践的な討議を重ねる会議で、本県では両者は交換会として一体化していきました。明治10年代に明治政府が政策的に推進した施策を引き継いでいます。



明治14年「勸業課農事農業掛事務等」

●秋成社の活動

秋成社は、明治12（1879）年に羽生氏熟ら132名の士族により結成された授産団体です。金禄公債を資本とする株式会社で、就業の目途の立たない士族を自活させることが目的でした。

秋成社は当初、開墾、養蚕、製糸を事業目的に掲げました。特に大張野の開墾は知られています。後に秋成社は、県の機業場や養蚕試験場、天蚕試験場を貸し下げられ、また大張野で芦粟による製糖に着手しています。



秋成社の大張野開墾計画図

●老農の活躍



石川理紀之助

石川理紀之助の業績は種苗交換会、「適産調」など全国的にも高く評価されていますが、この明治10年代には、彼に匹敵するくらいの農業の実践的指導者が県内各地で活躍しました。現在公文書にのこる勸業掛、農区委員、自由試験場担当人等になった人物の中にも、

評価されるべき業績をのこした人が多くいます。石川理紀之助に加え、これらの業績ある農業指導者として高橋正作と糸井茂助の2名を紹介します。

おもな出陳公文書目録

- 勸業寮の西洋種苗育成依頼 (明治7年)
- 勸業試験場設置の上申 (明治8年)
- 植物園試作大豆小麦の入札 (明治12年)
- 自由試験場の設立趣意 (明治13年)
- 試験田稲種下げ渡し願 (明治11年)
- 苜蓿試験場の設置 (明治13年)
- 牧畜試験場の沿革 (明治14年)
- 秋田博覧会規則 (明治13年)
- 群馬県出品目録 (明治13年)
- 内国勸業博覧会へ出品願 (明治13年)
- 腐米発生の原因 (明治11年)
- 腐米改良方法 (明治11年)
- 仙北改良社仮規則 (明治14年)
- 明治18年改良事業の現況 (明治18年)
- 六徳組の結立上申 (明治8年)
- 蚕種原紙印紙凡積取調帳 (明治11年)
- 川尻組のローマ字蚕種原紙 (明治11年)
- 天蚕試験場飼養日誌 (明治13年)
- 養蚕試験場敷地絵図 (明治9年)
- 試験場伝習生徒寄宿舎絵図 (明治12年)
- 十和田山中野生綿の標本 (明治12年)
- 駆除対象稲虫の標本 (明治11年)
- 腐米改良試験村の稲苗標本 (明治12年)
- 秋成社より製糖教師拝借願 (明治16年)
- 秋成社の開墾実施目的 (明治12年)
- 第一回勸業年報の起案 (明治12年)
- 勸業月報第一号 (明治13年)
- 臨時報第一号 (明治12年)
- 農務通信手続 (明治17年)
- 農商工務通信延期願 (明治18年)
- 勸業掛の選出 (明治11年)
- 勸農区画 (明治13年)
- 農区委員の受諾書 (明治14年)
- 勸業委員・勸業会設置準則 (明治17年)
- 勸業諮問会処務順序 (明治17年)
- 糸井茂助のアニ大豆の配布 (明治13年)
- 高橋正作の米質問答 (明治16年)
- 養蚕巡回教師茂木亀六 (明治19年)
- 勸業談会日誌 (明治15年)
- 花館村組合勸業談会日誌 (明治14年)
- 第一期雄勝郡各町農談会日誌 (明治15年)
- 種苗交換会施行手続き (明治14年)
- 農書の編纂 (明治17年)
- 農書の編纂の上申 (明治17年)
- 「興業意見」 (明治17年)